

■釧路公立大が接戦で室蘭工業大を下す。北星学園大は合同チームに快勝。
春季オープン戦第3日

北海道学生アメリカンフットボール連盟が所管する2023年春季オープン戦の第3日は7月9日、江別市の札幌学院大グラウンドで2試合を行った。釧路公立大は室蘭工業大を29-21の接戦で下し、帯広畜産大戦に続いて2連勝。北星学園大も、札幌学院大・北海道科学大・北海道医療大合同チームに33-2で快勝し、東京農業大戦に続いて2連勝とした。第4日は7月16日午前10時から、北海学園清田グラウンドで北海道大-北海学園大戦を行う。

昨年秋の道学生選手権（秋季リーグ）で3位の釧路公立大と、2年ぶりの1部復帰を決めた室蘭工業大。ともに今春の新入部員も大量に獲得し、勢いに乗る両校の対戦は、逆転と再逆転を繰り返す接戦となった。



先制は釧路公立大。第1Q6分、QB中西亮太（2年、旭川商業高）がWR伊原和哉（3年、新潟・新潟西高）へ5ヤードTDパスを決めて6-0とし、同11分にはDBも兼ねる伊原のインターセプトから、最後はWR高坂駿佑（3年、滝川西高）へQB中西が6ヤードTDパスを放ち、PATも決めて13-0。さらに第2Q6分には、LB関口翔大（4年、新潟・北越高）のインターセプトで得た攻撃シリーズでK北舘来星（2年、岩手・盛岡市立高）が25ヤードFGを決めて16-0とリードを広げた。



室蘭工業大の反撃は第2 Q 9分。自陣3 2ヤードからの攻撃シリーズでR B北村朋也（4年、釧路北陽高）のラン、QB渡辺陸（4年、兵庫・尼崎小田高）からWR勅使河原将国（2年、愛知・一宮南高）へのパスで前進すると、最後はR B富樫司（3年、札幌清田高）が4ヤードを走り込んで7-16として、前半を折り返した。室蘭工業大は後半開始早々の第3 Q 2分、自陣4 3ヤードからのパントリターンでR B富樫が一気に相手エンドゾーン目前まで持ち込み、最後はラテラルパスを受けたOL船木翔斗（3年、札幌清田高）が飛び込んでTD。PATもR B北村のダイブが決まり15-16。さらに同10分にはR B富樫の45ヤードTDランが飛び出して、21-16と逆転に成功した。

釧路公立大が前年Aクラスの実力を示せたのが第4 Q。後半から投入のエースQB山口響生（3年、札幌清田高）が1分にWR伊原へ40ヤードのTDパスを決め、PATのキックも決まり23-21と再逆転すると、終了間際の同10分にもWR伊原へ6ヤードのTD弾を投じて29-21と突き放し、接戦にけりを付けた。

3 TDキャッチの釧路公立大のWR伊原は「1本目のパスから集中した。去年は左肩のけがで最終戦しか出場できなかったもので、今年は去年の分も取り返したい」とどん欲さをアピール。高木瞭監督は「控えQBの中西はいいパスを投げた。伊原の復帰でパス攻撃の幅が広がる」と手ごたえを強調した。一方、室蘭工業大の半沢伸太郎監督は「1年生が活躍してくれた。秋に向けてスクリーン練習を増やしたい」と、こちらも手ごたえを実感。2 TDランの富樫は「ベスト11を取りたい」と意気込んだ。

第2試合は、OBも交えて15人の北星学園大が自慢のパス攻撃で、3校で25人の合同チームを下した。

北星学園大は第1Q11分、QB中手龍一（4年、札幌静修高）のパスを受けたWR清家海地（2年、静内高）がサイドライン際を快走して81ヤードのTDキャッチで先制。第2Q9分には、QB中手がWR河瀬隼人（2年、札幌稲雲高）へ24ヤードのTDパスで13-0とリードを広げた。その後ランTDも加えて、20-0で折り返した。第3Qも3分にQB中手からWR中田大翔（3年、北星学園大付属高）へ30ヤードのTDパス、同11分にはQB中手の4ヤードキープで33-0とリードを広げた。

合同チームが意地を見せたのが第4Qの残り2分を切ってから。敵陣30ヤードからの北星学園大のパントをブロックし、エンドゾーンに転がり込んだボールを、北海道医療大のLB坂東晃太（3年、神奈川・桐光学園高）が押さえてセーフティーを奪い、完封を免れた。



初のTDキャッチを決めた北星学園大のWR河瀬は「去年は1回キャッチしただけ。初めてのTDはうれしかった」と言葉を弾ませた。北野啄夢監督は「河瀬のTDは収穫。2年生QBも試合経験を積めた」としながらも「秋に向けてまずは人員確保を」と危機感を募らせた。一方、合同チームの佐藤敏弘札幌学院大HCは「各チームに1年生が多数入り、活性化につながっている」と選手増の動きを歓迎。この日はLBに加え、RBやリターナーとしても奮闘した北海道医療大の坂東は「セーフティの場面は絶対に押さえてやろうと思った。来年は自分のラストイヤーなので、医療大チームで出場したい」と改めて決意していた。（広報委員 塚田博）